2024

AKITA HANAKIKOU

あきた花紀行

仙北市の春を感じる、角館の桜・刺巻の水ばしょう・かたくり。

広報担当が撮影したベストショットをご紹介します。

仙北市消防団長に下田忠浩氏が就任

長年にわたり仙北市の消防団活動にご尽力された佐藤乃三消防団長が3月31日付けで仙北市消防団長を退任し、後任に下田忠浩氏が就任しましたので、お知らせいたします。

善意ありがとうございます

寄付いただきました

仙北水力発電株式会社

令和5年3月から締結している協定に基づき、地域の振興・活性化に資する活動に使用することを目的とした地域振興基金の寄付をいただきました。

寄付金額は、毎年の売電収益の状況により決定され、令和23年度まで、毎年度ご寄付いただく予定になっています。令和5年度は、420万円の寄付をいただきました。

第34回田沢湖オープン ソフトテニスインドア大会

3月17日、生保内市民体育館で第34回田沢湖オープンソフトテニスインドア大会が開催され、愛好者たちのはつらつとしたプレーが展開されました。

男子の部

優　勝　武藏勇亨（角ク）・高橋司（田ク）
準優勝　加藤悠愛（生保内中）・三浦魅路（生保内中）
第3位　高橋輝昭（田ク）・後藤一哉（角ク）
敢闘賞　齋藤大雅（生保内中）・小山璃仁（生保内中）

女子・シニア65男子の部

優　勝　髙橋志穂（田ク）・髙橋理郁（角ク）
準優勝　船山采姫（神代中）・田中陽菜（神代中）
第3位　安藤愛（神代中）・伊藤愛莉（神代中）

台湾東部沖地震の義援金について

4月8日から15日まで各市民センター・出張所において募金箱で受付を行いました。市民の皆さまからの義援金と併せて、仙北市議会、仙北市国際交流協会および市職員からの義援金総額84万円を台北駐日経済文化代表処へお届けしました。

市民の皆さまの温かいご支援に対し、感謝を申し上げます。

義援金を受け取る台北駐日経済文化代表処副代表の蔡明耀氏と田口市長

新行政相談委員に芳賀昭範さん

西木地区の後任の行政相談委員として、令和６年４月１日付けで芳賀昭範さんが新たに委嘱されました。

行政相談は、どなたでも無料で相談できますので、お気軽にご利用ください。（※行政相談委員の連絡先はＰ 29 の「行政に関する相談ごとは行政相談委員に」をご覧ください）

新山敦晃さんに総務大臣感謝状

このたび、令和６年３月まで行政相談委員を務められた新山敦晃さんに、秋田行政監視行政相談センター佐々木所長から総務大臣感謝状が贈呈されました。新山さんは、平成 27 年に委嘱されて以来、９年にわたり公正・中立な立場から住民と行政のパイプ役として相談を受け付けてきました。

左から、佐々木所長、新山さん、新行政相談委員の芳賀さん、赤上副市長。

ブレイクダンス全国大会
「JAPAN breakin'cup（ジャパン ブレイキンカップ）」

HaLuTo(小松大斗さん) が日本一！

3月30日に大阪府咲洲モリーナで開催されたブレイクダンス全国大会「JAPAN breakin'cup（ジャパン ブレイキンカップ）」の「男子小学生高学年の部」に、小松大斗さん（西明寺小学校6年）が出場しました。

4月3日には、小松さんとブレイキンを指導する進藤臣智さんが市役所田沢湖庁舎を訪れ、田口市長へ受賞を報告しました。

小松さんはダンサーネーム“HaLuTo”として、これまで同大会には三度出場。前々回は4位、前回が8位という結果でしたが、今年は念願の優勝をはたしました。

今年開催するパリオリンピックで正式種目に追加されることで注目されているスポーツ“ブレイキン（ブレイクダンス）”。進藤さんは「今後はユースオリンピック出場を目指して指導していきたい」と話しました。

左から、田口市長、進藤さん、小松さん、赤上副市長。

小松さんのブレイクダンス。

地域スポーツの発展へ貢献

アクアスポーツ少年団が スポーツ少年団優秀団に

受賞者のみなさんが集合。

渡辺代表よりあいさつ。

アクアスポーツ少年団（代表／渡辺友康さん）は、長年の水泳普及や水泳の振興に実績を上げたことが評価され、公益財団法人 秋田県スポーツ協会より秋田県スポーツ少年団優秀団、公益財団法人 日本水泳連盟より優秀団体に選ばれました。

3月27日、西木温泉ふれあいプラザクリオンで受賞報告会と卒業を祝う会が開催され、受賞の喜びを語り合いました。渡辺代表は「長年活動を続け、全国大会に出場する選手も在籍している。これも保護者の皆さまのご協力があってこそ。引き続き積極的に活動を続けていきたい」と意気込みを語りました。

書のもつ楽しさを伝える

酒井佇泉さんが 毎日書道展で「会員」に認定

角館で活動する書家・酒井佇泉さんは、日本で最大の公募展である毎日書道展で名誉ある「会員」に認定されました。

酒井さんの出展している「詩文書部門」で、会員の認定を受けるのは市内では初となります。

書道愛好家や子どもたちに、書道の楽しさを伝える教室を開催しながら、書の活動を行ってる酒井さんは「以前は角館の桜やお祭りをテーマに書をしたためることが多かった。最近では震災や予期せぬ事故で亡くなった方の思いを伝えるためには、墨が適していると思い、その悲しい思いを伝えることも書の使命と思っている」と話しました。

会員証を持つ酒井さんと作品。

書道教室の様子。

仙北市 地域おこし協力隊コラム

「くらべる」効用（任期残り一年）

中山里沙

「仙岩トンネルを抜けると、日本海側であった。」

盛岡から仙北市に戻ってくる度に浮かぶ言葉です。岩手側は大気に水気が少ないから、太陽の光は空気中で乱反射せず強く降り注ぎ、光が違うと景色の見え方はぜんぶ違います。空は群青色、山の稜線は明瞭、植物は日差しを白く照り返し、風は乾いた硬い質感。トンネルから秋田側に出た途端、空気は潤って光は柔らかく、空は水彩の水色、山々や樹々の輪郭は朧げに霞んでいる。山ひとつ隔てて、違う国を往来したかのようです。

私が生まれ育ったのは「太平洋側気候」のため、初めて秋田へやって来た頃は「日本海側気候」のすべてに圧倒されていました。気候がもたらす風土と、それによって醸成された文化や人々の気風など、「秋田」の見せるすべてに。「ここのどんなところが気に入ったの？」という質問に今もはっきり答えることができるのは、この太平洋側・日本海側の違いを一つの指標としているからで、この「くらべるもの」の存在が大きいと考えています。

これは何かを知りたい場面におしなべて有効で、例えば自分とはどういう人間かを理解したければ広く多様な人を知り、この土地らしさとは何かを明確にしたいなら「この土地以外」をたくさん見て違いを考える、というように。「他者と比べる」ことはネガティブな印象を持ちがちですが、比べなければ見えてこない姿があるのだとここへ来て学びました。

ここで暮らして約三年半ですが、私が惹かれた秋田の魅力、その姿形をまだまだ掴みきれていません。やはり、もっと知りたいと思うのです。仙北市はもちろん、秋田県も、東北も（日本も日本以外も）。協力隊の任期は延長させていただき残り一年。その間にもっと「個性＝魅力」を明らかにしたいと思います。残り一年、よろしくお願いします。

年明けの頃の田沢湖。くらべるものなし、唯一無二。